

【ねがいましては】

平成20年5月26日

KYOWA SCHOOL

第211号

「損得」

子どもたちの感情の中に占める「損と得」。日々の生活の中にある「損と得」。もちろん大人たちの中にも当然のごとく「損と得」。損得勘定で毎日をあたり前のように生活しています。

その中にうごめく「欲」。欲なくして生きては行けないのかもしれませんが、日々の触れ合いの中で見せる子どもたちの欲。しかしその中にあって、欲を見せない子もいます。

欲が前面に出すぎてしまう子・・・「わがまま」とよく言われると思います。つまり「自分さえ得すればよい」という考え方になります。その延長線上にあるもの・・・「うそ」などがそうなります。

なぜそのような感情を持ち始めたのか？

様々な要因が考えられますが、その中でも最も大きく働いているのが「勝ち負け」の存在です。

「勝つ」は良い。「負け」は悪い。自然と結びついてしまうこの両者。当たり前のことなのですが、子どもたちには全体把握は出来ません。その場限りの結果に全神経は傾きます。

例えば「あいさつ」・・・はずかしい、面倒くさい、などの理由で幼い頃からあまりしないでいると、やがて成長したとき、人間関係に苦しむことになりかねませんし、人生にとって大切な「人との出会い」にも大きな影響を与えるでしょう。それよりも何よりも、あいさつされた相手は温かいところを見つけることになります。あいさつは温かい贈りものなのです。子どもの持っている根っからの明るさに加え、そこにあいさつが加味されますと、世の中どんな良い方向へいくと思ってしまう。

例えば「歯みがき」・・・面倒くさい、疲れる、などの理由で幼い頃からあまりしないでいると、やがて成長したとき、自分に押し寄せる膨大な治療費、それよりもなによりも、味が変わり何を食べてもおいしくありません。

例えば「手洗い」・・・たった一回でも手を洗うことを忘れても、その時たまたま運が悪くインフルエンザウイルスが手についており、それが原因で・・・家族の人たちにはただならぬ苦労をかけてしまう。

そしていよいよ勉強の番です。義務教育化されている子どもたちにとっての勉強。お母さま方は子の勉強についてただならぬ危機感を感じてしまいます。そのきっかけがテスト結果であったり、宿題であったり・・・。

「このままではいけない・・・なんとかしなければ・・・。」焦りとともに短時間にして湧き上がる感情の渦・・・。

「ドカーン」と炸裂します。我が子が「欲」中心に動く子だと思っている方は、「ドカーン」とやります。

先ほどほんのちょっと触れましたが、欲を見せない子もいます。もし母が我が子のことを「欲を見せない子」、つまりとなりの子の心を気遣うことができる子として認識していたら、「ドカーン」はないのかな・・・。

やさしさを、思いやりを持っている子。そのような子が勉強につまずいているとしたら、母はどのような言葉をかけるのでしょうか。

「どうしたの、なにかあったの、ひとりで苦しまないでお話聞かせてくれる？」そっと寄り添う母がいます。そっと寄り添う友だちがいます。そっと寄り添う「ひと」がいます。

先日授業中、わたしは子どもたちにある質問をしました。「給食のとき、自分の好きなおかずがありました。よそってもらう自分の番がきたとき、どうか自分にはたくさん〇〇が入ってくれますように祈ってないかい。それって裏返しにすると、となりの人には少なく入りますように祈っていることになるよね。」・・・シーン。

大人でも毎日スーパーへ買い物に出かけると、同じ金額なら生きのいいもの、同じ金額ならたくさん入っているもの、と、ガサガサと引っ掻き回している人を見かけますよね。あれです。自分だけ得すれば周りのことなどどうでもよい。知らずのうちに、子どもたちも「オバタリアン化」しているのです。

子どもたちは純粋です。先ほどのお話をした際、実に落ちついた表情を子どもたちは浮かべました。そうだよな。そうなんだよ。たしかにそうだ。

子にとっての最大の教育者は「母」です。生まれたときから人生の教育者です。母の生き様を子は見続けます。

もし母が、自身常にとりなりの「ひと」に温かい心遣いをし、常に思いやることや優しくしてあげることを絶やさず生活されているとしたら、きっとわが子はとなりの子に気を配れる子になっているはずです。

もしそうでないとしたら、それは日常「欲」のかたまりとなっているお母さんか、または子と過ごす時間があまりにも乏しいお母さんではないでしょうか。

私は日々の授業の中で、必死に訴えていることがあります。「となりの人にこころを配ろう。」「となりの人に思いやりをプレゼントしよう。」

そして勉強に苦しんでいる子がいたら、声をかけます。

「どうしたの、なにかあったのかい。」

きょうも温かい瞳を注いでくれる子たちがきます。なあ、そのころ絶対忘れないでよ、『欲』はいらないよ。すると不思議だろ、あったかい人たちがたくさん君のまわりに集まるんだ。ありがとう。